

1

[大阪大・文]

平面上に長さ 2 の線分 AB を直径とする円 C がある。2 点 A, B を除く C 上の点 P に対し、 $AP = AQ$ となるように線分 AB 上の点 Q をとる。また、直線 PQ と円 C の交点のうち、 P でない方を R とする。このとき、以下の問いに答えよ。

- (1) $\triangle AQR$ の面積を $\theta = \angle PAB$ を用いて表せ。
- (2) 点 P を動かして $\triangle AQR$ の面積が最大になるとき、 \overrightarrow{AR} を \overrightarrow{AB} と \overrightarrow{AP} を用いて表せ。

2

[北海道大・文]

平面において、一直線上にない 3 点 O, A, B がある。 O を通り直線 OA と垂直な直線上に O と異なる点 P をとる。 O を通り直線 OB と垂直な直線上に O と異なる点 Q をとる。ベクトル $\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ}$ は \overrightarrow{AB} に垂直であるとする。

(1) $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OQ} \cdot \overrightarrow{OA}$ を示せ。

(2) ベクトル $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}$ のなす角を α とする。ただし、 $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ とする。このときベ

クトル $\overrightarrow{OP}, \overrightarrow{OQ}$ のなす角が $\pi - \alpha$ であることを示せ。

(3) $\frac{|\overrightarrow{OP}|}{|\overrightarrow{OA}|} = \frac{|\overrightarrow{OQ}|}{|\overrightarrow{OB}|}$ を示せ。

3

[一橋大]

xyz 空間において、原点を中心とする xy 平面上の半径 1 の円周上を点 P が動き、点 $(0, 0, \sqrt{3})$ を中心とする xz 平面上の半径 1 の円周上を点 Q が動く。

- (1) 線分 PQ の長さの最小値と、そのときの点 P, Q の座標を求めよ。
- (2) 線分 PQ の長さの最大値と、そのときの点 P, Q の座標を求めよ。

4

[京都大・文]

xyz 空間の中で, $(0, 0, 1)$ を中心とする半径 1 の球面 S を考える。点 Q が $(0, 0, 2)$ 以外の S 上の点を動くとき, 点 Q と点 $P(1, 0, 2)$ の 2 点を通る直線 l と平面 $z=0$ との交点を R とおく。 R の動く範囲を求め, 図示せよ。

1

[大阪大・文]

- (1) $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ のとき, AB が直径なので $\angle APB = \frac{\pi}{2}$ より,

$$AP = AB \cos \theta = 2 \cos \theta$$

すると, 条件より, $AQ = 2 \cos \theta$, $BQ = 2 - 2 \cos \theta$

また, $\angle AQP = \frac{1}{2}(\pi - \theta) = \frac{\pi}{2} - \frac{\theta}{2}$ から,

$$PQ = 2AQ \cos\left(\frac{\pi}{2} - \frac{\theta}{2}\right) = 4 \cos \theta \sin \frac{\theta}{2}$$

ここで, 方べきの定理より, $PQ \cdot RQ = AQ \cdot BQ$ となり,

$$4 \cos \theta \sin \frac{\theta}{2} \cdot RQ = 2 \cos \theta (2 - 2 \cos \theta), \quad RQ = \frac{1 - \cos \theta}{\sin \frac{\theta}{2}} = \frac{2 \sin^2 \frac{\theta}{2}}{\sin \frac{\theta}{2}} = 2 \sin \frac{\theta}{2}$$

そこで, $\triangle AQR$ の面積を S とすると, $\angle AQR = \pi - \angle AQP = \frac{\pi}{2} + \frac{\theta}{2}$ より,

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \cdot 2 \cos \theta \cdot 2 \sin \frac{\theta}{2} \cdot \sin\left(\frac{\pi}{2} + \frac{\theta}{2}\right) = 2 \cos \theta \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2} \\ &= \cos \theta \sin \theta = \frac{1}{2} \sin 2\theta \end{aligned}$$

- (2) (1)より, S が最大になるのは, $\sin 2\theta = 1$ すなわち $\theta = \frac{\pi}{4}$ のときである。

このとき, $PQ : QR = 4 \cos \frac{\pi}{4} \sin \frac{\pi}{8} : 2 \sin \frac{\pi}{8} = \sqrt{2} : 1$ となり, 点 R は線分 PQ を $(\sqrt{2}+1):1$ に外分することより,

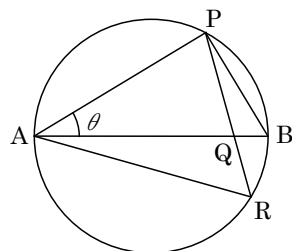
$$\overrightarrow{AR} = \frac{-\overrightarrow{AP} + (\sqrt{2}+1)\overrightarrow{AQ}}{(\sqrt{2}+1)-1} = -\frac{1}{\sqrt{2}}\overrightarrow{AP} + \frac{\sqrt{2}+1}{\sqrt{2}}\overrightarrow{AQ}$$

また, $AQ = 2 \cos \frac{\pi}{4} = \sqrt{2}$ から, $\overrightarrow{AQ} = \frac{\sqrt{2}}{2}\overrightarrow{AB}$ となるので,

$$\overrightarrow{AR} = -\frac{1}{\sqrt{2}}\overrightarrow{AP} + \frac{\sqrt{2}+1}{\sqrt{2}} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2}\overrightarrow{AB} = -\frac{\sqrt{2}}{2}\overrightarrow{AP} + \frac{\sqrt{2}+1}{2}\overrightarrow{AB}$$

[解 説]

よく見かける構図の三角関数の図形への応用問題です。上記以外にも, いろいろな解法が考えられます。たとえば, 点 A を原点, 点 B を x 軸上の点として xy 平面で, というのも脳裏に浮かびましたが, 計算量を考えて……。



2

[北海道大・文]

(1) まず, $\alpha > 0$, $r > 0$, $0 < \alpha < \pi$ として, xy 平面上で,

$$\overrightarrow{OA} = (a, 0), \overrightarrow{OB} = r(\cos \alpha, \sin \alpha) \text{ とおく.}$$

すると, 条件より, $p \neq 0$, $q \neq 0$ として,

$$\overrightarrow{OP} = (0, p), \overrightarrow{OQ} = q(\sin \alpha, -\cos \alpha)$$

さらに, $\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ}$ と \overrightarrow{AB} が垂直なので,

$$(\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ}) \cdot \overrightarrow{AB} = 0$$

ここで, $\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ} = (q \sin \alpha, p - q \cos \alpha)$, $\overrightarrow{AB} = (r \cos \alpha - a, r \sin \alpha)$ から,

$$q \sin \alpha (r \cos \alpha - a) + (p - q \cos \alpha) r \sin \alpha = 0$$

$\sin \alpha > 0$ より, $q(r \cos \alpha - a) + r(p - q \cos \alpha) = 0$, $pr - aq = 0 \cdots \cdots (*)$

さて, $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OB} = pr \sin \alpha$, $\overrightarrow{OQ} \cdot \overrightarrow{OA} = aq \sin \alpha$ なので, $(*)$ から,

$$\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OQ} \cdot \overrightarrow{OA}$$

(2) \overrightarrow{OP} , \overrightarrow{OQ} のなす角を β ($0 < \beta < \pi$) とおくと, $\cos \beta = \frac{\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OQ}}{|\overrightarrow{OP}| |\overrightarrow{OQ}|} = \frac{-pq \cos \alpha}{|p| |q|}$

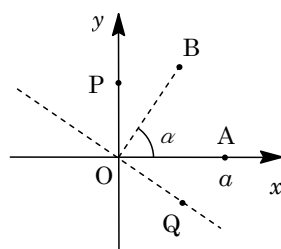
ここで, $(*)$ から p と q は同符号なので, $|p| |q| = |pq| = pq$ となり,

$$\cos \beta = \frac{-pq \cos \alpha}{pq} = -\cos \alpha = \cos(\pi - \alpha)$$

$0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ より, $\frac{\pi}{2} < \pi - \alpha < \pi$ となるので, $\beta = \pi - \alpha$ である。

(3) $(*)$ より, $pr = aq$ となり, $r|p| = a|q|$ である。

よって, $|\overrightarrow{OB}| |\overrightarrow{OP}| = |\overrightarrow{OA}| |\overrightarrow{OQ}|$ から, $\frac{|\overrightarrow{OP}|}{|\overrightarrow{OA}|} = \frac{|\overrightarrow{OQ}|}{|\overrightarrow{OB}|}$ となる。



[解 説]

まず, 2つの垂直関係から, 座標の設定という方法を考えました。しかし, (1)を解くと, その考え方を採用するほどでもないことがわかり, それで押し通そうとも思ったのですが, (3)で暗雲が漂いはじめました。ということで, リセットして……。

3

[一橋大]

- (1) 原点が中心で xy 平面上の半径 1 の円周上の点 P は、 $P(\cos\theta, \sin\theta, 0)$ と表せる。ただし $0 \leq \theta < 2\pi$ である。また、点 $(0, 0, \sqrt{3})$ が中心で xz 平面上の半径 1 の円周上の点 Q は、 $Q(\cos\varphi, 0, \sqrt{3} + \sin\varphi)$ と表せる。ただし $0 \leq \varphi < 2\pi$ である。

$$\begin{aligned} PQ^2 &= (\cos\theta - \cos\varphi)^2 + \sin^2\theta + (\sqrt{3} + \sin\varphi)^2 \\ &= 1 - 2\cos\theta\cos\varphi + 1 + 3 + 2\sqrt{3}\sin\varphi = -2\cos\theta\cos\varphi + 2\sqrt{3}\sin\varphi + 5 \end{aligned}$$

ここで、 $\vec{u} = (-\cos\theta, \sqrt{3})$ 、 $\vec{v} = (\cos\varphi, \sin\varphi)$ とおくと、

$$PQ^2 = 2\vec{u} \cdot \vec{v} + 5$$

さて、まず θ を $0 \leq \theta < 2\pi$ で固定して考えると、線分 PQ の長さが最小となるのは、 \vec{v} が \vec{u} と逆向きになるときである。このとき PQ^2 の最小値は、

$$2\sqrt{\cos^2\theta + 3} \cdot 1 \cdot \cos\pi + 5 = -2\sqrt{\cos^2\theta + 3} + 5$$

さらに、 $0 \leq \cos^2\theta \leq 1$ から、 $\cos\theta = \pm 1$ のとき、 PQ^2 は最小値 $-2\sqrt{1+3} + 5 = 1$ 、すなわち PQ は最小値 1 をとる。

- (i) $\cos\theta = 1$ ($\theta = 0$) のとき

$\vec{u} = (-1, \sqrt{3})$ となり、 $\varphi = \frac{2}{3}\pi + \pi = \frac{5}{3}\pi$ となるので、

$$P(1, 0, 0), Q\left(\frac{1}{2}, 0, \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$$

- (ii) $\cos\theta = -1$ ($\theta = \pi$) のとき

$\vec{u} = (1, \sqrt{3})$ となり、 $\varphi = \frac{\pi}{3} + \pi = \frac{4}{3}\pi$ となるので、

$$P(-1, 0, 0), Q\left(-\frac{1}{2}, 0, \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$$

- (2) (1)より、線分 PQ の長さが最大となるのは、 \vec{v} が \vec{u} と同じ向きになるときである。このとき PQ^2 の最大値は、

$$2\sqrt{\cos^2\theta + 3} \cdot 1 \cdot \cos 0 + 5 = 2\sqrt{\cos^2\theta + 3} + 5$$

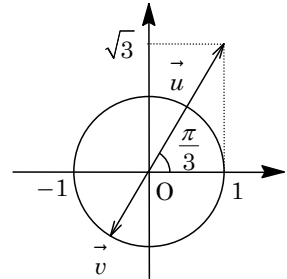
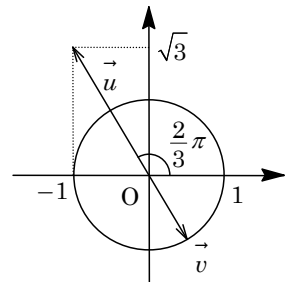
さらに $\cos\theta = \pm 1$ のとき、 PQ^2 は最大値 $2\sqrt{1+3} + 5 = 9$ 、 PQ は最大値 3 をとる。

- (i) $\cos\theta = 1$ ($\theta = 0$) のとき $\vec{u} = (-1, \sqrt{3})$ となり、 $\varphi = \frac{2}{3}\pi$ となるので、

$$P(1, 0, 0), Q\left(-\frac{1}{2}, 0, \frac{3}{2}\sqrt{3}\right)$$

- (ii) $\cos\theta = -1$ ($\theta = \pi$) のとき $\vec{u} = (1, \sqrt{3})$ となり、 $\varphi = \frac{\pi}{3}$ となるので、

$$P(-1, 0, 0), Q\left(\frac{1}{2}, 0, \frac{3}{2}\sqrt{3}\right)$$



[解 説]

1 文字固定の最大・最小問題です。内積の定義を利用して、図で考えています。

4

[京大・文]

中心を $A(0, 0, 1)$ とする半径 1 の球面 S 上にあり、点 $(0, 0, 2)$ 以外を動く点 Q に対し、点 $P(1, 0, 2)$ と点 Q を結ぶ直線 l が平面 $z=0$ と交わる点を $R(x, y, 0)$ とおく。

そして、 \overrightarrow{PA} と \overrightarrow{PR} のなす角を θ とし、直線 l が球面 S に接するとき、 $\theta = 45^\circ$ であることに注目すると、

$$\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PR} = |\overrightarrow{PA}| |\overrightarrow{PR}| \cos \theta = \frac{1}{\sqrt{2}} |\overrightarrow{PA}| |\overrightarrow{PR}| \cdots \cdots \textcircled{1}$$

ここで、 $\overrightarrow{PA} = (-1, 0, -1)$ 、 $\overrightarrow{PR} = (x-1, y, -2)$ から、

$$\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PR} = -(x-1) + 2 = -x + 3, \quad |\overrightarrow{PA}| = \sqrt{(-1)^2 + 0 + (-1)^2} = \sqrt{2}$$

$$|\overrightarrow{PR}| = \sqrt{(x-1)^2 + y^2 + (-2)^2} = \sqrt{x^2 + y^2 - 2x + 5}$$

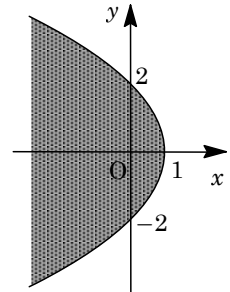
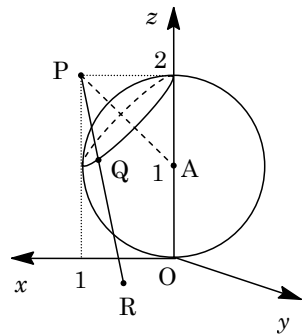
①に代入すると、 $-x + 3 = \frac{1}{\sqrt{2}} \cdot \sqrt{2} \cdot \sqrt{x^2 + y^2 - 2x + 5}$ となり、

$x \leq 3$ のもとで、

$$(-x + 3)^2 = x^2 + y^2 - 2x + 5, \quad x = -\frac{1}{4}y^2 + 1 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

②は $x \leq 3$ を満たし、点 Q が球面 S 上を動くとき、点 R の動く範囲は、②を境界線とし原点を含む側である。

図示すると右図の網点部となる。ただし、境界は領域に含む。



[解 説]

20 年以上も前になりますが、そのころ頻出していた点光源の問題です。内積を用いて円錐側面の式を立て、境界線を導いています。この方法の詳細は「ピンポイントレクチャー」を参照してください。